

項目	内容
名称	イボツツラフジ [英]- [学名]Tinospora crispa
概要	<p>イボツツラフジは、東南アジア原産のツツラフジ科のつる性植物。主に茎が使用される。同じくイボツツラフジと呼ばれるチノスポラ・コルディフォリア (<i>Tinospora Cordifolia</i>) とは別種である。</p>  <p>写真提供: 広島大・医歯薬・生薬学研究室</p> <p>日本では、全木が医薬品として使用される成分本質に該当するため、全木を食品に使用することはできない。</p>
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全木: 「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> ・サポニン類 (ピクロレチン)、ラクトン類 (コロンビン) (29)、アルカロイド類 (ベルベリン、パルマチン) (PMID:21213972) (29) などを含む。
分析法	<ul style="list-style-type: none"> ・茎中のアルカロイド類をNMRにて同定した報告がある (PMID:21213972)。
有効性	
ヒトでの	<p>循環器・呼吸器</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
の	<p>消化系・肝臓</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>

<p>評価 糖尿病・ 内分泌</p>	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病治療薬の服用およびインスリン注射を行っていない2型糖尿病患者40名（試験群20名、平均58.4±9.2歳、タイ）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、イボツツラフジを1 g×3回/日、6ヶ月間摂取させたところ、空腹時血糖、HbA1c、インスリン値に影響は認められなかった (PMID:15222526)。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な成人10名（平均27.6±2.95歳）および2型糖尿病患者10名（平均54.5±9.歳、タイ）を対象とした単回摂取試験において、イボツツラフジ粉末を125 mgまたは250 mg単回摂取させたところ、75 g OGTTによる血糖値およびインスリン値に影響は認められなかった (PMID:22131824)。
<p>生殖・泌尿器</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>脳・神経・ 感覚器</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>免疫・がん・ 炎症</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>骨・筋肉</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>発育・成長</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>肥満</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>その他</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>参考文献</p>	<p>(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 (29) 牧野和漢薬草大図鑑 北隆館 (80) 植物レファレンス事典 日外アソシエーツ (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) (PMID:22131824) J Biomed Biotechnol. 2012;2012:808762. (PMID:21213972) Nat Prod Commun. 2010 Nov;5(11):1747-50. (PMID:15222526) J Med Assoc Thai. 2004 May;87(5):543-6. (PMID:24867504) Phytomedicine. 2014 Jul-Aug;21(8-9):1120-3. (PMID:30670256) Complement Ther Med. 2019 Feb;42:286-291.</p>